

<p>平成 27 年 11 月 27 日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>12月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

### 果樹の休眠期防除を徹底し、来年の病虫害の発生を抑えましょう。

<h2>I. 今月の予報</h2>	
<h3>【注意すべき病虫害】</h3>	
<p>イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</p>	1
<p>促成ピーマン：うどんこ病・・・・・・・・・・・・・・・・</p>	1
<h3>【その他の病虫害】</h3>	
<p>イチゴ，促成ピーマン・・・・・・・・・・・・・・・・</p>	2
<h3>【防除所レポート】</h3>	
<p>平成 27 年産の大豆子実に発生した主要な病虫害について・・・・・・・・</p>	3
<h2>II. 今月の気象予報</h2>	
<p>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</p>	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。          茨城県病虫害防除所    Tel : 029-227-2445          予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。          ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/</a>          フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在, 寄生葉率(本年値 15.0%, 過去7年平均値 8.1%), 発生地点率(本年値 89%, 過去7年平均値 51%)ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は, 薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 気門封鎖剤以外については, 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお, 薬剤散布は, 古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は, 薬剤の影響日数等に十分注意する。

#### 促成ピーマン

### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い~多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在, 発病度\*は平年よりやや高く(本年値 4.8, 平年値 2.6), 発生地点率は平年より高い(本年値 100%, 平年値 36%)。  
※発病度: 病斑をもとに算出した数値, 最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため, 初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため, できるだけ取り除き, ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は, 薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 薬剤耐性菌の出現を防ぐため, FRAC コードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を導入している場合は, 影響が少ない薬剤を選択する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	萎黄病	発生量：－	11月下旬現在，平年より多い発生である。発病株はただちに抜き取り，適切に処分する。
	うどんこ病	発生量：平年並	11月下旬現在，平年並の発生である。
ピーマン	アザミウマ類	発生量：平年並	11月下旬現在，平年並の発生である。

## 平成 27 年産の大豆子実に発生した主要な病害虫について

本年産大豆子実の主要な病害虫について県内 13 圃場の発生状況を取りまとめました（表）。病害では、べと病（写真 1）の被害粒率は平年並で、紫斑病の被害粒率は平年よりやや低くなりました。なお、「納豆小粒」では、べと病の発生が目立った圃場も見られました。

虫害では、マメシクイガ（写真 2）の被害粒率は平年並で、吸実性カメムシ類の被害粒率は平年より低くなりました。また、ツメクサガ、オオタバコガ等のチョウ目害虫の圃場での発生は、8月下旬から9月下旬にかけて平年よりやや多く推移しましたが、被害粒率は平年並でした。

このように、本年は特に被害が目立った病害虫はありませんでした。

表 大豆分解調査における主要病害虫の発生状況

病害虫名	被害粒率(%)			発生地点率(%)		
	本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>	本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>
べと病	1.1	1.1	6	31	47	8-9
紫斑病	0.3	0.7	7	31	44	8
マメシクイガ	1.9	2.3	5	62	68	7-8
吸実性カメムシ類	0.9	2.8	10	31	87	11
ツメクサガ、オオタバコガ等のチョウ目害虫	0.1	0.1	6	8	14	7

1) 平年：平成 17 年～26 年の値の平均値。

2) 順位：本年を含む過去 11 年間における本年値の順位を示す。（8-9 は 8 位から 9 位が同じ値であることを表す。）

〔調査圃場〕 県内 13 地点の大豆圃場（タチナガハ 9 地点、納豆小粒 4 地点）

〔調査方法〕 1 圃場当たり 10 株の上位 20 莢程度（合計 200 莢程度）を採集し、子実の被害を目視で調査した。

〔採集時期〕 平成 27 年 10 月下旬



写真 1 べと病による被害粒

〔葉や子実が発生する。子実では、種皮に亀裂を生じ、乳白色～黄褐色の菌糸でうすく覆われる。〕



写真 2 マメシクイガによる被害

〔莢の縫合部付近に脱出孔がみられる。子実は縫合部に沿って溝状に食害される。糞は細い鋸りず状で、色は橙色に近い。〕

## II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 11月28日から12月27日)

気象庁 (11月26日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 11月28日(土曜日)から12月4日(金曜日)

気温 平年並の確率50%

<2週目の予報> 12月5日(土曜日)から12月11日(金曜日)

気温 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 12月12日(土曜日)から12月25日(金曜日)

気温 平年並または高い確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類\* (FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成27年4月28日発表)の防除所レポート参照